

旧約聖書に登場するソロモンは、神さまに「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われたときに、「聞き分ける心をお与えください」と願いました。そこで神さまはソロモンに「知恵」を与られます。そして神さまから知恵を与えられたソロモンは、エルサレム神殿を建てることとなります。またシェバの女王が浴びせたたくさんの質問にもすべて答え、彼女を驚かせたそうです。

一般的に知恵というと、知識や理解力と同じように人間の能力の一つとして考えてしまいがちですが、聖書に出てくる「知恵」は、神さまに属するものであり、神さまから与えられるものです。また新約聖書の中では、聖霊の賜物と書かれます。

イエス様もまた、たくさんの知恵に満ちていました。ルカ福音書にはそのことに関する記載が見られます。

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。(ルカ 2:40)」／「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。(ルカ 2:52)」

わたしたちは会議の最初に、お祈りをすることがあります。そのときに、神さまからの知恵を求めのお祈りをするのが良いのかもしれません。「わたしたちの思いではなく、あなたの思いがみ前に置かれますように、わたしたちに必要な知恵をお与えください」との祈りは、会の進行を神さまにお委ねするという思いを言葉にあらわす意味でも、とても大事なものののではないのでしょうか。

なお、聖公会やカトリック教会が使用している「旧約聖書続編」には、「知恵の書」という書物が載せられています。9章には「知恵を求めるソロモンの祈り」も書かれています。「知恵」を深く知りたい人は、どうぞお読みください。

次回は「知識」です。楽しみに。



「知者ソロモンの裁き」

ギュスターヴ・ドレ

(1832～1883年)

見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。

(列王記上 3章 12節)

